

DI ニュース

2024.01

入院患者における不眠時の選択薬

不眠とは、入眠障害、中途覚醒、早朝覚醒により患者の機能低下や生活への影響をもたらす事象です。その原因として、普段とは異なる入院環境の外的要因、患者自身の身体的要因や心理的要因、薬物の副作用などがあげられます。また、せん妄の潜在についても注意する必要があります。

高齢化が進む日本において、入院患者も高齢化の一途をたどっています。加齢による睡眠効率の低下により睡眠リズムが崩れ、日中の居眠りが増多し、昼夜逆転や夜間不眠などが発生することがあります。

従来、不眠治療には BZD/非 BZD 系受容体作動薬が広く使用されてきましたが、依存性やせん妄、転倒・転落のリスクとなる事が知られています。特に転倒・転落においては、日常生活の活動量を低下させる要因となり、入院期間の延長や医療費の増大にもつがります。そのため、高齢社会におけるせん妄や転倒・転落のリスクの少ない睡眠薬選択が重要となってきます。

今回、当院採用薬を考慮した睡眠薬選択の протоколを作成したので紹介します。本来であれば第一選択薬はメラトニン受容体作動薬や、オレキシン受容体拮抗薬を選択するべきですが、当院はベルソムラ 15mg のみの採用となっており、併用禁忌薬を考慮してルネスタを第一選択薬として設定しています。

転倒、せん妄、不隠を考慮した薬剤選択

●原則、持参薬を継続●

新たに薬剤を選択する場合

